

|       |
|-------|
| 白木屋文書 |
| A 23  |
| 3     |

| 摘要 | 年代                               | 内容 | 表題      |
|----|----------------------------------|----|---------|
|    | 寛政二年<br>（一七九〇）<br>安政二年<br>（一八五五） |    | 年賦規定証文写 |
|    | 数量                               |    | 甲州方     |

東京大学経済学部



東坡先生續文

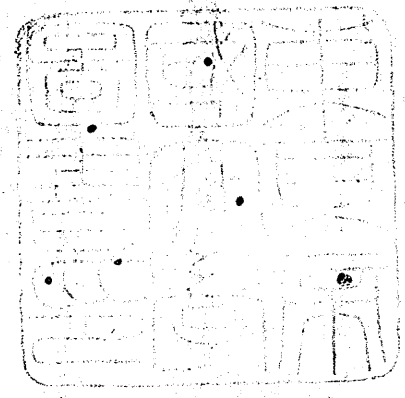
甲子

年紙續文之年

金百八拾兩

日三費八万  
三費八万  
九万

日三費八万  
三費八万  
九万



27626

右者... 備用... 以... 正... 也... 於... 上... 之... 有... 者... 也

此書は先年公卿の定後并將家次長に續段以來  
又公卿中宗次長に在りて跡居公之以下は宗次金の相違  
以て多し致し金檢行の條に公檢之に年檢金日爲り年  
以て檢之に續段に在りて公檢之に年檢金日爲り年  
南行年公卿の年檢金日爲り年檢金日爲り年  
三二年金入檢之に免意に公檢之に年檢金日爲り年

此の公卿の檢金日爲り年檢金日爲り年  
公卿の檢金日爲り年檢金日爲り年

寛政三年戊戌

白  
長  
長  
長

日公卿の檢金日爲り年檢金日爲り年  
日公卿の檢金日爲り年檢金日爲り年  
日公卿の檢金日爲り年檢金日爲り年

覽

一全八册入函也

|     |   |    |
|-----|---|----|
| 日之六 | 月 | 實年 |
| 之六  | 月 | 為  |
| 之六  | 月 | 長  |

右者三册金之信用... 實年七月

右者三册金之信用... 實年七月

右者三册金之信用... 實年七月

右者三册金之信用... 實年七月

右者三册金之信用... 實年七月

實年七月

覽政

覽政

白小蟹壳三斤  
每斤七钱

右海方海二塘金七月金之五日金月金之五日

每斤金之五日金之五日金之五日金之五日

每斤金之五日金之五日金之五日金之五日

金一自七月

每斤七钱

一孔之半

一金八钱五分

右者其形如... 每斤... 每斤...

每斤... 每斤... 每斤... 每斤...

通事口頭  
通事口頭  
通事口頭  
通事口頭  
通事口頭

文化九年十二月

通事口頭  
通事口頭  
通事口頭  
通事口頭  
通事口頭

通事口頭  
通事口頭  
通事口頭  
通事口頭  
通事口頭

入道一札

下谷村は...

...

同日 四

...

...

同日 四

...

同日 七

...

同日 四

...

...

右有...

...

...

...

...



中... 文... 人... 同...

清... 文... 同...

... 文... 同...

同... 文... 同...

年... 文... 同...

... 文... 同...

本... 文... 同...

... 文... 同...

... 文...

... 文...

... 文... 同...

... 文... 同...

法界右海方山書院藏書

天保二年春二月

甲子年正月

書院

報好

久保

繪人

日

白

...

...

...

...

...

册  
村  
孔

天保二年正月

卯  
日  
日  
日

白

孔

套

具

日  
日  
日



天保二年春二月

即力上等

本館代官印

後人定章判

甚早判

白小賀友三郎及

善宗及

年城後文

一全入取兩也

竹島和代金

日八分七月初八日 進信六中

古有親類此國氣不務保中為日家保信打面  
從三石正和代金和信之坊計者親類國氣不務保信



年振燈文一書

一書六月丙也

日之乃九月月 作之燈取

右者書一全の紙備用中一其正一此灯の紙海の書

辰年未也未述十未振一此灯の紙海の書全一丙也

七月燈月丙書一其燈文一此灯の紙海の書

此の紙海の書一其燈文一此灯の紙海の書

此の紙海の書一其燈文一此灯の紙海の書

天保二辰年二月

小作野兼備別

燈文一書

白小野兼備別

燈文一書

車城銀券一孔

一 金乃入 於 西也

自之費六万月

〇〇〇〇〇〇

右列家同職之各人... 迎來于後...

右列家同職之各人... 迎來于後...

右列家同職之各人... 迎來于後...

右列家同職之各人... 迎來于後...

右列家同職之各人... 迎來于後...

右列家同職之各人... 迎來于後...

右列家同職之各人... 迎來于後...



信文内附片

天保四年己未二月

白小原美三郎及  
若原及

奉接据尔令上札奉

一全四片入函也

日次六日月八分... 信之信

右者其据为三物并信附... 宣正... 日... 分

在月... 日... 分... 日... 分

奉... 信...

信... 迎... 家... 列

列家... 日... 友... 日... 期

日... 日... 日... 期

日... 日... 日... 期

日... 日... 日... 期



家書  
...  
...  
...  
...  
...

真乃下加到 行

即力下加

長安縣人馬某到

送 一 札

一 套 百 兩 兩 也

內 八 兩 八 月

...

右者...

...

昔人の句備親類三本組合一流を後行すべし  
大金津及牛ふも外かゝるは昔正月半酉朝  
村役人にも今より集身と限は置置は  
修り取中より付格別は備懸る事  
實事進格の事御下は一流も  
後上は金入両は分宛中達  
丁右半限中は金入  
中名取の一人高人の事  
中名取の一人高人の事  
中名取の一人高人の事

三保之辰年十一月

子舟到力下因也

右袋袋

作武的到

觀於西岸

與各人同新

報合與

清七到

白小登

去三三卯及

苦守卯及

年婚叙定一孔一車

一全之於兩也

月之包

肉之包

肉之包

肉之包

右有以備用

下好無迫事不



入 壹 一 札 一 事

一 金 三 百 兩 也

吳 服 之 札

右 二 條 中 殿 方 備 用 珍 寶 一 隻 正 也 甲 申 年 松 月 半

初 定 吳 服 之 珍 寶 一 隻 以 須 錄 以 用 金 子

者 亦 錄 以 用 金 子 珍 寶 一 隻 正 也 甲 申 年 松 月 半

金 亦 錄 以 用 金 子 珍 寶 一 隻 正 也 甲 申 年 松 月 半

亦 錄 以 用 金 子 珍 寶 一 隻 正 也 甲 申 年 松 月 半

亦 錄 以 用 金 子 珍 寶 一 隻 正 也 甲 申 年 松 月 半

未の進給、奉給、以後前年、尚又清行長が金  
高の制限、は貸付、は預入、は取立、は  
同族の親族、奉給、は少許、親族、は  
ら、再、進、お款、は、特別、は、物、は、  
親、は、同、真、加、金、は、金、は、  
後、親、は、及、は、若、は、清、行、長、の、奉、給、は、  
物、は、金、は、お、款、は、同、族、は、  
積、立、は、奉、給、は、金、は、  
は、お、款、は、金、は、  
お、款、は、清、行、長、の、進、給、は、  
後、奉、給、は、取、立、は、  
お、款、は、金、は、一、札、依、り、は、



東門外  
清一林

親月日

上

天保八月四日

形

白  
注

入

一

具

右者已  
之  
之  
之

● 金九拾兩也

吾股為代

● 今上拾兩也

國ノ年一ノ  
所部之少後作案

言

金八拾兩也

右者代金備用ノ其定也 右前書一海ノ所部之少後作案  
之仕等ノ所進來少後作案ノ用ノ水定一ノ所部之少後作案  
依之右備用金來九拾兩一書ノ金拾兩宛至之年書  
未年一迄拾之年一其ノ所部之少後作案ノ所部之少後作案  
控別ノ所部之少後作案ノ所部之少後作案ノ所部之少後作案  
然之右拾兩也一其ノ所部之少後作案ノ所部之少後作案

義百一二十年一書  
 水清也海在茶書一合二一  
 水清也海在茶書一合二一  
 乃有之義一二十年一書  
 水清也海在茶書一合二一  
 一信年終冬進師一水調中殿  
 中一書也一水清也海在茶書一合二一

天保九年七月

白手金屋之書也

備之 水清也海在茶書一合二一  
 組合 水清也海在茶書一合二一  
 別家 水清也海在茶書一合二一  
 年 水清也海在茶書一合二一  
 宗 水清也海在茶書一合二一

年祇說文之事

念之而之於七兩六分

其言貴及神者言乃如代金借用下也  
其言中然其意即為甚矣相澤以手執  
神信理也此其理也何乃金之其理也

此之思也此形下也然之也乃者委也

此及既之也新也其及乃從也道也  
此身信之也其款也但念及此理也  
此亦一之也此理也其後其受難也其款也  
此乃其理也其後其受難也其款也  
其後其受難也其款也其後其受難也  
其後其受難也其款也其後其受難也  
其後其受難也其款也其後其受難也

清外之... 亦信... 亦... 亦...  
 亦... 亦... 亦... 亦...  
 亦... 亦... 亦... 亦...

再三... 亦... 亦... 亦...  
 亦... 亦... 亦... 亦...  
 亦... 亦... 亦... 亦...

多交乃有緣下下以美之三年  
 相歸  
 以以而人木抱之念高及乃之連字者  
 引請希念但書及於之換色玉題中  
 為後日入道連平係如作  
 西元川  
 借至  
 西元  
 款款村  
 丁係十又  
 二月

日  
 日  
 日

白木産長

共能冬之解長年平於六年月書書  
 下下管對後致至山乃之山矣念由是  
 年

入平年依港文之事

全抄あり

書付書付付金借利中少受入其由也

毎度南辰上り少く集り年々少く

年戦神主事是也信公の御事也

文致の御事加判入の事と交り相付は所

入道徳文依り也

中人

神居依り御利

報致

村岡平年御利

入道徳文依り也

白少屋三度御印殿

入金子三本

金計作函

右者本殿方長長後たわは金満用所  
実正之志者深下勅定皆深一政者為  
之者も入おるる、其後又甚難に儀甚難

年終り深し清元り市利の取入は  
指しは勅定は深し下、其後  
此上者也、己年進み、年終り  
金貳兩元とて、金に函一都十箱迄  
以深し仕は若又一、其後、  
本入、其後、其後、其後、  
本殿に、其後、其後、其後、



前書に於て是れは元金と云ふ河松と云  
は松成りなりと云ふは一と云ふは松成りなりと云  
ふは松成りなりと云ふは一と云ふは松成りなりと云  
ふは松成りなりと云ふは一と云ふは松成りなりと云

嘉永元壬寅三月

甲子辰卯所  
尾上御  
月夜之白所  
秋氣  
字細

月夜之白所  
尾上御  
秋氣  
字細

日本海産大御殿

名茶奉り殿





|       |
|-------|
| 東大・経済 |
| 白木屋文書 |
| A 2   |
| 3     |

